## 大熊町 地域魅力向上・発信事業計画に基づく事業 個票

令和7年7月25日時点

※本様式は1-3,1-4に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	3	事業名	特産品のイチゴを使ったス 魅力発信事業	イーツ商品による大熊町の	事業番号	A-3		
事業実施主体			大熊町総交付対象事業費				21,696 千円	
既配分額			0 千円	当該年度交付対象事業費	21,696 千円			
経費区分ごとの費用								
一 地域の魅力向上・発信事業①情報								
①情報発信事業						計 21	, 696 千円	
i)風評動向調査							千円	
ii )体験等企画実施						21	, 696 千円	
iii)情報発信コンテンツ作成							千円	
iv)ポータルサイト構築							千円	
②外部人材活用						/]	計 千円	
i):	i )企画立案のための外部人材の活用						千円	
ii ) t	ii )地域の語り部の育成						千円	
二 関連	こ 関連施設の改修							
地域(	地域の魅力発信事業と一体的に行うための関連施設の改修						千円	

### 風評の払拭に関する目標

大熊町産イチゴの情報閲覧数:100万PV以上(ネクサスファームおおくまのホームページ及びインスタグラムの総閲覧数事業実施後の30%増、大手メディアと協力して記事体広告、ウエブ記事を作成することによる接触情報源の拡大、県外イベントの開催及び有名パティスリーとの商品開発を通じて仮想空間外での情報接触者数の増加を図る。)

### 事業概要

事業実施主体	大熊町				
主な企画内容	<ol> <li>大熊町産イチゴを使ったスイーツ商品の開発</li> <li>イベント出店によるスイーツ商品の販売</li> <li>店舗でのフェアによるスイーツ商品の販売</li> <li>1. ~. 3. に係る情報発信</li> </ol>				
主な事業の実施場所	東京都及び神奈川県				
事業の実施期間	令和7年10月~令和8年3月				

# 企画内容

### 【現状・課題】

### く現状>

- 〇大熊町が 100%出資する「ネクサスファーム」を設立し、令和元年からイチゴの栽培を始め、新たな特産品 として産出量拡大、販路開拓に取り組んでいる。
- 〇消費者庁の「風評に関する消費者意識の実態調査」(第 18 回・令和7年 3 月公表)によると、食品の産地を 気にする理由で、「放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答した人は 11.4%となり、前年 (9.3%)を 2 ポイント上回った。放射性物質を理由に購入をためらう産地を聞いたところ、「福島県」と回 答した人は 6.2%と、前年(4.9%)を上回った。これまで減少傾向が続いていたが、上昇に転じており、福島 県品に対する風評の影響が根強く残っている。
- ○風評や福島県産品を忌避する消費者がいることへの不安が、大熊町におけるイチゴの認知度向上・販路拡大 の大きな障害となっている。
- 〇令和5年8月に ALPS 処理水の海洋放出が始まった。

#### <課題>

OALPS 処理水の海洋放出により、福島県産品を忌避する消費者が増えるのではとの不安が高まり、イチゴの産出量拡大、販路開拓にも影響が出る恐れがある。

- 〇上記消費者庁の調査によると、「風評被害を防止し、売られている食品を安心して食べるために、どのようなことが行われるとよいと思うか」という問いに対して、「それぞれの食品の安全に関する情報提供」が41.7%、「食品に含まれる放射性物質に関する科学的な説明」が30.5%、「それぞれの食品の産地や産品に関する情報提供」が27.0%を占めた。このことから、正しい知識や正確な情報の発信に加えて、大熊町特産品であるイチゴのおいしさや魅力を発信することが必要となっている。
- 〇イチゴ産地としての認知度が低く、販路開拓には、付加価値のあるスイーツ商品の開発による認知度の向上 が必要となっている。
- ○イチゴを使ったお土産の種類が少なく、万人受けする商品がないため、イベント等で町を PR する際に商品を手に取って見ていただける消費者への訴求力が低い。

#### 【課題に対するこれまでの取組と成果等】

<課題に対するこれまでの取組>

令和2年度

○ネクサスファームおおくま初の自社商品「おおくまべリージャム」を開発

令和3年度

○「おおくまべリーセミドライ」を開発

令和4年度

○「おおくまベリー飲む蒟蒻ゼリー」を開発

令和5年度

○「おおくまべリー香るサワーエール」を田村市のホップジャパンと共同開発

令和6年度

- ○「紅ほっぺのレアバウムクーヘン」を富岡町の夜ノ森バウムと共同開発(受注生産のみ)
- 〇「防災用イチゴ缶詰パン (名称未定)」を開発

<目標達成状況>

ネクサスファームおおくま公式ホームページ

総閲覧数(回) 10.114 (集計期間 2019 年 1 月~2025 年 6 月末)

ネクサスファームおおくま公式インスタグラム

フォロワー数(人) 487

総閲覧数(回) 55,607 (集計期間 2024年6月~2025年6月末)

### 【今年度事業における具体的な取組内容】

1. 大熊町産イチゴの規格外品を使ったスイーツ商品の開発

実施期間:令和7年10月~12月

実施体制:大熊町、ネクサスファーム、委託事業者

概算費用: 3,775 千円

実施内容:大熊町が 100%出資する「ネクサスファーム」で産出されるイチゴの規格外品を有効活用。「スイーツ甲子園 ふくしまチャレンジカップ」の審査員を務める著名パティシエと共同で、スイーツ商品(パフェ 1 種類、加工品 3 種類)を開発。付加価値の高いスイーツ商品を通じて、大熊町産イチゴの認知度を高めるとともに、規格外品を有効活用することで、「SDGs」に配慮したスイーツとして売り出し、大熊町の目指す "ゼロカーボン"の取組についても周知し、産出量拡大、販路開拓を図る。

2. イベント出店によるスイーツ商品の販売

実施期間:令和8年1月~3月

実施体制:大熊町、ネクサスファーム、委託事業者

実施場所:東京都、神奈川県

概算費用:11,071 千円

実施内容:首都圏で開催されるイベントにブースを出店し開発した商品を販売。付加価値の高いスイーツ商品を実際に食べてもらうことで、大熊町産イチゴの認知度向上を図り、産出量拡大、販路開拓につなげる。また、福島県産品を忌避する消費者が増加に転じていることを踏まえ、土壌など環境の影響を受けない「ポッドスライド型高設溶液栽培」を採用し、収穫後に放射性物質検査を行い安全が確保されていることを知ってもらうチラシの配布及びパネルの展示を行い、風評の払拭を図る。

① 「ヨコハマストロベリーフェスティバル」(1週間)

・2026 年 2 月に横浜市の赤レンガ倉庫で開催される全国各地の人気スイーツ店やイチゴ生産者が集まり、"イチゴの祭典"として知られる「ヨコハマストロベリーフェスティバル」にブース出店。

- ・パフェ1種類(1,000食)と加工品3種類(各200個計600個)を販売。
- ・大熊町産イチゴを試食提供(1,000人分)。
- ・チラシ配布(5,000枚)。

- ② 「ふくしまスイーツフェスティバル」(4日間)
- ・2026 年 2 月に東京都渋谷区の代々木公園で開催される「ふくしまスイーツフェスティバル」に 出店する大熊町物販ブースで、加工品 3 種類(各 50 個計 150 個)) を販売。
- チラシ配布(3,000枚)及びパネル展示
- 3. 店舗でのフェアによるスイーツ商品の販売

実施期間:令和8年1月~3月

実施体制:大熊町、ネクサスファーム、委託事業

実施場所:東京都、神奈川県

概算費用: 2,857 千円

実施内容:福島県のアンテナショップ「日本橋ふくしま館ミデッテ」及び共同開発した著名パティシエのパティスリーにおいて、開発したスイーツ商品を販売するフェアを開催。付加価値の高いスイーツ商品を実際に食べてもらうことで、大熊町産イチゴの認知度向上を図り、産出量拡大、販路開拓につなげる。また、福島県産品を忌避する消費者が増加に転じていることを踏まえ、土壌など環境の影響を受けない「ポッドスライド型高設溶液栽培」を採用し、収穫後に放射性物質検査を行い安全が確保されていることを知ってもらうチラシの配布及びパネルの展示を行い、風評の払拭を図る。

- ① 「日本橋ふくしま館ミデッテ」(2日間)
- ・パフェ1種類(100食)、加工品3種類(各20個計60個)を販売。
- チラシ配布(1,000枚)及びパネル展示
- ② 著名パティシエのパティスリー(1週間)
- ・パフェ1種類(400食)、加工品3種類(各50個計150個)を販売。
- ・チラシ配布(1,000枚)及びパネル展示
- 4.1.~3.に係る情報発信

実施期間:令和8年1月~3月

実施体制:大熊町、ネクサスファーム、委託事業者

概算費用: 3,993 千円

実施内容: 1. ~3. の取組についてマスメディアへの記事や記事体広告の掲載、リリース配信などによる情報発信を展開する。記事、記事体広告、リリースにおいては、大熊町産イチゴの魅力やおいしさを紹介し認知度を高め、産出量の拡大、販路開拓につなげる。また、福島県産品を忌避する消費者が増加に転じていることを踏まえ、土壌など環境の影響を受けない「ポッドスライド型高設溶液栽培」を採用していることや、収穫後に放射性物質検査を行い安全が確保されていること等の安全に対する取組を記載し、風評の払拭を図る。

・マスメディアに 1. ~3, の取組を紹介する記事やイベントの告知記事、イベントの開催記事を掲載 (10 本以上)。

- ・1. ~3. の取組に関するリリースを配信(3回以上)。
- ・マスメディアのウエブサイトに、1,~3.の取組を紹介する記事体広告を掲載(10,000PV保証)。

#### 【今年度事業における目標】

<アウトプット>

- 〇スイーツ商品の開発:パフェ1種類、加工品3種類
- ○イベントへの出店:2回○店舗でのフェア開催:2回
- 〇スイーツ商品の販売:パフェ1,500 食、加工品1,000 個
- 〇大熊町産イチゴ試食提供:1,000人
- 〇チラシ配布:10,000 枚
- **<アウトカム>**
- 〇イベントブース訪問者数:10,000人
- 〇販売店舗来店者数:1,000人
- ○マスメディアのウエブサイトの記事体広告閲覧数:10,000PV

# 【今年度、事業の実施により得られる効果】

- ○大熊町産イチゴの認知度向上
- ○大熊地産イチゴの産出量拡大及び販路開拓